67 下伊那農業高等学校

令和７年度　生徒による授業評価結果まとめ

授業評価については、今後の授業改善に役立てることを目的に、前期（８月)、後期（12 月）に全校生徒を対象にすべての授業に対して評価を実施した。

１　授業評価について

自己評価も含め、以下の３つの質問について５段階で評価

(1) 質問事項

質問１　自分は授業に集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいますか？

質問２　授業の進度や難易度は、自分にとって適切ですか？

質問３　先生は興味・関心を高め、わかりやすい授業をしていますか？

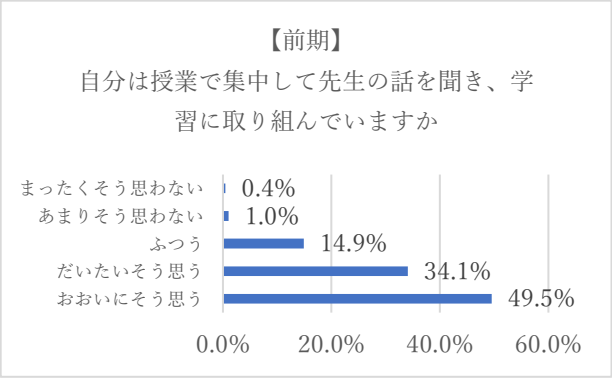
(2) 評価規準

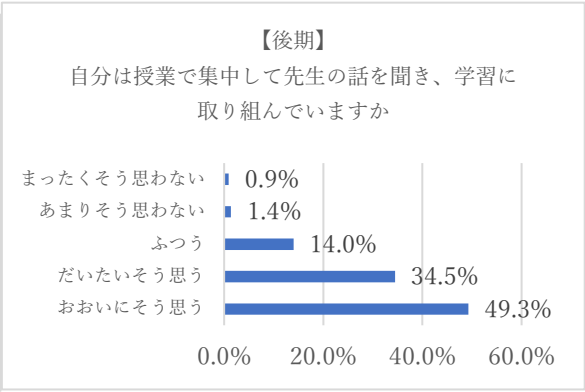
①大いにそう思う　②だいたいそう思う　③ふつう　④あまりそう思わない

⑤まったくそう思わない

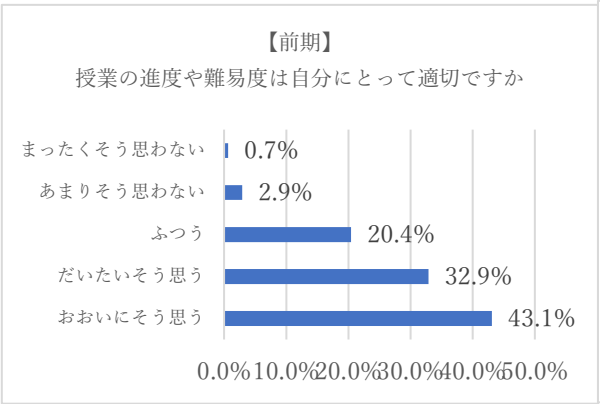
２　評価結果について

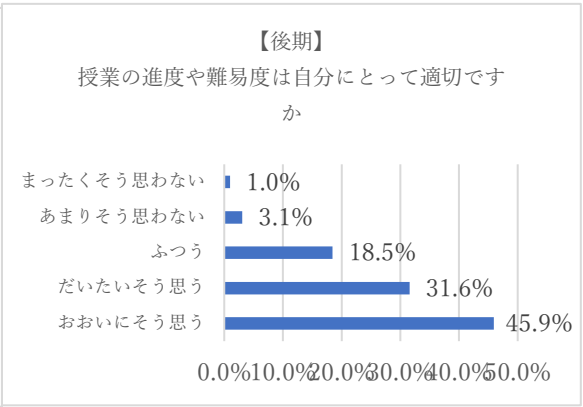
(1) 質問１の「生徒自身の授業態度」については「ふつう」以上と回答したのは前期 98.5%、後期 97.7%、改善が必要と回答した生徒は前期 1.4%、後期 2.3%だった。



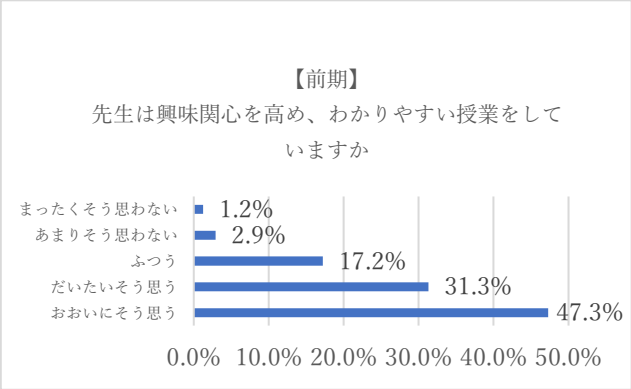


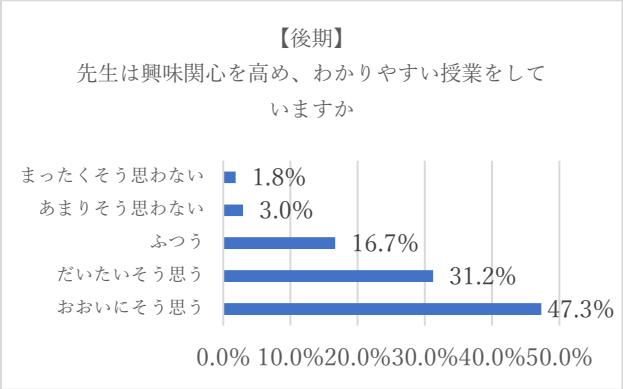
(2)質問２の「授業の進度や難易度」については、「ふつう」以上と回答したのは前期 96.4%後期 95.9%、改善が必要と回答した生徒は前期 3.6%、後期 4.1%だった。





(3)質問３の「わかりやすい授業か」については「ふつう」以上と回答したのは前期 95.9%
後期 95.2%、改善が必要と回答した生徒は前期 4.1%、後期 4.8%だった。





３　今後について

昨年度「ふつう」以上とした回答は(1) 前期 98.8%、後期 98.4%　(2) 前期 96.8%、後期 96.5%
(3) 前期 96.2%　　後期 96.0%であったので、今年度も昨年度と大きく変わらない結果となった。

電子黒板を活用した授業やタブレット端末を利用した授業が増えており、「電子黒板を利用した授業はわかりやすい。」「自分で調べることで理解が深まった。」といった有効的に使用している感想が多く見られた。その一方で、振り返りの学習等する中で、プリントやノートを使った学習を求める声もみられる。また、ＩＣＴ機器の利用が苦手な生徒にとっては課題を感じているところもみられる。今後、ICT 機器の効果的な活用に向け、職員のスキルアップのための研修を実施していきたいと考える。

体験的な学びを通して、知識を身につけることができたことやグループでの活動で教え合うなどしながら成長できたといった声もあった。